

しい、大自然のリズムに逆らうことのないようにと述べていらっしゃる。無理なく自然に、は先生の常なる姿勢であったように思う。研究室の面々が、時に勝手なことを言うのに対して、いつも無理なく、自然に、そして決して怒ることなく対応して下さった。この二十年、先生にはいろいろご苦勞をおかけしてしまった。残る者一同、先生に感謝申し上げ、これからも一層お元気で、先生のお望み通りのお過ごし方をなさるよう、お祈り申し上げる。

## 山本幸一先生ご退任に際して

松 原 稔

山本幸一先生は、1968年4月に本学数理学科教授として御着任になり、22年間在職され、本年3月末で定年退職された。

先生は東京帝国大学（現在の東京大学）数学科を卒業されて以来、整数論及びその姉妹科学である組み合わせ論を専門とされて居り、その間に発表された研究成果は、広く内外に高く評価され、特に、組み合わせ論では、わが国の先達であると言っても過言ではない。

ある折に、研究室で同った事であるが、先生は、戦後間もない金沢高等師範学校に、はじめて赴任される時、それに先立って、先生の師であった末綱恕一先生から、「古典を読みなさい」とすすめられ、まず「ヒルベルトの記念碑的報告“Die Theorie der algebraischen Zahlkörper”—代数的数体の理論—（ドイツ数学協会の1897年の年報に掲載された論文）をえらび、それに沈潜し、研究した」と話された。またそれ以後の先生の研究生活をめぐり、それが展開されて来た模様を、諄々と語りつつ、内外の数学の流れとあり方について、ひとしお、感慨深げであった事を、今更に、思い出すのである。

昨年11月、朝倉書店より出版された先生の著書“組合せ数学”は、先生の長年にわたる研究成果の一端を、はじめて成書の形で示されたものであり、此の方面を学ぶ学生、並びに専門家にとって、良き指針となるものであらうと、不案内な私にも、その重厚さを感じさせるのである。

先生は、本学の学生・院生のみならず、広く研究者の育成について、細心にして、かつ多大な努力を払われた。その一部は、本学において、内外の研究者を集め、数度にわたる研究集会を主催された事実にも示されている。と同時に、先生が各任地において、必ずといってよい程に、研究者を育てられた事等々に思い到ると、先生の並々ならぬ学問に対する情熱と力量に、敬服せざるを得ない。また、先生は、数理学科主任、入試運営委員長、電算室運営委員、大学院合同研究科会議議長、大学図書館運営委員等をなされ、本学の発展のため、大いに盡力された。寡黙な中にも、にじみ出る

温いお人柄と、希有な記憶力を示す多方面への造詣の深さには、先生に接しられた方々は、少なからず驚ろかれた事であろう。高邁な骨格のある先生の識見は、数理学研究室内において、大きな柱ともなり、私達の心に残る事であろう。

停年を迎えられた今日、教理学教室の一員として一緒に仕事をし、もろもろの事について懇切な教えを受け、公私ともに親しくして頂いた事を思うとき、惜別の念の禁じ得ないものがあるが、先生には、再び新らたなる時への“commencement”として、何時までもご健康で、また“大きな足跡”を残される事を祈ってやまない。

#### 山本幸一教授略歴

- 1921年 5 月 山形県鶴岡市に生る。
- 1941年 4 月 東京帝国大学理学部数学科入学
- 1943年 9 月 同大学卒業
- 1943年11月——1945年 9 月 軍務
- 1946年 4 月 東京帝国大学理学部大学院入学
- 1947年 1 月 金沢高等師範学校講師嘱託
- 1949年 5 月 同校教授
- 1951年 5 月 金沢大学理学部助教授
- 1953年 4 月 九州大学理学部助教授
- 1958年12月 理学博士（東京大学）
- 1960年 9 月 Visiting assistant professor, University of Southern California, Los Angeles CA, U. S. A.
- 1961年——現在 Mathematical Reviews レビューアー
- 1961年 9 月 Associate professor, University of Southern California, Los Angeles CA, U. S. A.
- 1964年 2 月 九州大学理学部教授
- 1965年 7 月 同大学退職
- 1965年 8 月 Visiting professor, Mathematics Research Center, University of Wisconsin, Madison WI, U. S. A.
- 1966年 6 月 Professor of Mathematics, Florida Atlantic University, Boca Raton FL, U. S. A.
- 1967年12月 同大学退職
- 1968年 4 月 東京女子大学文理学部教授
- 1970年 4 月——1981年 3 月 東京大学教養学部非常勤講師
- 1971年 ——1982年 Discrete Mathematics 編集部員
- 1976年 4 月——1980年 3 月 電気通信大学情報工学科非常勤講師
- 1983年 4 月——1985年 3 月 佐賀大学理工学部（大学院）非常勤講師
- 1990年——現在 Ars Combinatoria 編集部員

1990年 3 月 東京女子大学定年退職

主な論文と著書

An asymptotic series for the number of three-line Latin rectangles, Journ. Math. Soc. Japan, Vol. 1 (1949), 226-241.

On the asymptotic number of Latin rectangles, Japanese Journ. Math., vol. 21 (1951), 113-119.

Symbolic methods in the problem of three-line Latin rectangles, Journ. Math. Soc. Japan, vol. 5 (1953), 13-23.

Logarithmic order of free distributive lattices, Journ. Math. Soc. Japan, vol. 6 (1954), 343-353.

Theory of arithmetic linear transformations and its application to an elementary proof of Dirichlet's theorem about the primes in an arithmetic progression, Proc. Internat. Symposium on Algebraic Number Theory. Tokyo-Nikko, 1955, 266-267

Structure polynomial of Latin rectangles and its application to a combinatorial problem, Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ. Ser. A, vol. 10 (1956), 1-13.

Generation principles of Latin squares, Proc. 32<sup>nd</sup> session, Intern. Statistical Institute 1960, 73-76.

Decomposition field of difference sets, Pacific Journ. Math., vol. 13 (1963), 337-352

On Gaussian sums with biquadratic residue characters, Journ. für reine angew. Math., vol. 219 (1965), 200-213.

On a conjecture of Hasse concerning multiplicative relation of Gaussian sums, Journ. Combin. Theory, vol. 2 (1966), 476-489.

On Jacobi sums and difference sets, Journ. Combin. Theory, vol. 3 (1967), 146-181.

The gap group of multiplicative relationships of Gaussian sums, Symposia Mathematica, vol. 15 (1975), 427-440.

On a generalized Williamson equation, Colloquia Math. Soc. János Bolyai, vol. 37 (1983), 839-850.

順列・組合せと確率 岩波書店 1983.

組合せ数学 朝倉書店 1989.